



Washington Japanese Language School 2023年3月25日 発行 第41号

ワシントン日本語学校

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>



ワシントン日本語学校
校長 神戸 昭夫

[ワシントン日本語学校事務局]
HOT LINE (301)962-7415
TEL (301)962-7410
FAX (301)962-7411

3月18日 卒業証書授与式の様子です



卒業証書授与



校長式辞



管理運営委員長祝辞



来賓祝辞



記念品授与



長期在籍表彰



在校生送辞



卒業生の言葉



卒業生の言葉



卒業、修了、進級おめでとうございます

今日は令和4年度の第41授業日です。4月9日の始業日、4月16日の入学式から令和4年度が始まりました。念願の終日、対面授業でした。当初は1クラスの定員を18名と設定してスタートしましたが、年度途中で幼稚部、小学部1年は20名、その他の学年が22名に変更し、また運動会も全校一斉で行うことができました。学校本来の姿に戻りつつあると思います。対面となり、2年間のオンライン授業で画面の中にいた友達は、当たり前ですが、自分の前や後、横にいるようになりました。休み時間には一緒に話をすることもできました。

この1年間の子供たちの頑張りに大きな拍手を送りたいと思います。そして卒業、進級おめでとうございます。

さて、2年前、私が本校に赴任する数カ月前に発行された「中等教育資料」という文部科学省が発行している雑誌に以下のようなことが掲載されていました。「学校に通うことの意味」という題でした。本校は補習授業校ですから、基幹教科の基本的な力をつけることは大事な目標です。対面授業に戻り、その良さを再認識している今、改めて学校に通うことの意味を考え直してみたいと思います。

学校に通うことの意味

2021年の始まりである。2020年は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行で、日本でも本
当に大変な1年であった。感染拡大防止のために、学校も約3カ月にわたる長期の休業措置を強いられ
た。全国的な休業措置がこれほど長く続いたのは、私の記憶の中でも初めてのことである。

今まで、子どもたちにとって、学校は日常生活の中で当たり前存在だった。でも、学校が休業とな
り、ICTを活用してオンライン授業やリモート会議などを実施すれば、学校に直接通学しなくても学ぶこ
とができることも分かった。では、学校で顔を合わせることでしかできないことは何だろうか。改めて
学校に通うことの意味を考えてみた。人それぞれだと思うが、私なりに考えていることを述べてみた
い。

私は、「学校は、子供たちが集団生活を通して、自ら“折り合い”をつけることができる力を身に付
ける場である」と考えている。様々な人と穏やかな繋がり成り立っている社会の中では、人は一人で
は生きていくわけではない。つまり、自分の考えと他人の考えの相違がある場合に、自分自身や相手と
の擦り合わせを通して、どこかで折り合いを付ける必要がある。その力を身に付けることが学校に通
うことの大きな意味であり、学校はそのトレーニングの絶好の場ではないかと考えている。

新たな年は、子供たちが、“折り合い”をつける力をしっかりトレーニングできる1年になってほし
いと願っている。

視学官 藤枝秀樹

中等教育資料 令和3年1月号より



卒業式 送辞



卒業生の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。高校一年、生徒会書記小寺優蘭です。

今年度から終日対面授業が再開し、ようやく友達や先生方と同じ教室で机を並べることができました。卒
業生のみなさんは最終学年を対面授業で終えることができ、ほっとしているのではないのでしょうか。と
は言え、過去2年間においては新型コロナウイルスの影響で、多くの行事が中止・縮小されるなど活動の幅
が狭くなり、無念な思いを抱いたこともあったと思います。慣れないオンライン授業や、通常なら当たり
前のようにできていた活動を工夫して行わなければいけず、多くの苦労がありました。そんな逆境の中、
皆さんが笑顔を絶やすことなく日本語学校での勉強を継続し、コロナ禍でもできる新しい活動を力を合わ
せて盛り上げてくれたおかげで、本日全員揃って卒業式を迎えることができたことを嬉しく思います。

私が一番心に残っている皆さんとの思い出は運動会と生徒会です。

小学6年生の皆さんは、低学年の時の微笑ましい様子から大きな成長を遂げ、今年度小学部最後の運動会
では、周りに気を配りつつも競技に集中している姿が印象的でした。その姿は、小学部低学年の生徒たち
にとっての見本となったと思います。また、生徒会では最小学年でありながら、本の読み聞かせや美化月
間のビデオの出演など、たくさんの努力を見せてくれました。

中学3年生の皆さんは、運動会での競技だけでなく、応援団、審判、用具など、たくさんの役割を担当す
ることで、陰で運動会を支える大切さを行動で示してくれました。また、生徒会では、積極的に発言し
たり、抜群のチームワークで学年の活動を進め、生徒会の活動に大きく貢献してくれました。

高等部2年生の先輩方は、応援団やラジオ体操で全校生徒を引っ張っていく姿を心強く感じました。応援
合戦では、日々一緒に練習を重ね切磋琢磨することによって、学年やクラスという垣根を超えて一致団結
することや、お互いを尊重しあい、協力することが素晴らしいということ、また、一度決めたら最後まで
やり通すという実行力が大切だということを教えていただきました。

生徒会では三役を中心に、よりよい学校にするためにいろいろな活動を発案し、実行に移すという企画力と実行力に感銘を受けました。現地校以外にも土曜日に授業を行う日本語学校での時間に刺激的な側面を加えていただいたおかげで、充実した学校生活でした。

卒業式のために、私たち生徒会が主導して、在校生徒、保護者の皆様と、先生方からのメッセージを散りばめた桜の木を用意しました。この花びらや葉っぱには、私たちからのお祝いと感謝の気持ちが綴られています。みなさんの思い出の一部になってくれると嬉しいです。

今、卒業生のみなさんは、胸に夢と希望を抱いて新しい世界へと羽ばたこうとしています。進級する小6と中3の皆さんは不安もあるかもしれませんが、努力する気持ちと支えてくれる仲間がいることを忘れずにますます頑張ってください。そして、高校2年生の皆さんは今日を以って日本語学校とお別れすることとなります。今まで日本語学校で学んできた勉強、文化、精神力、そして仲間との楽しい思い出が、みなさんの夢や希望に向かう過程での後押しになってくれることを願っています。それぞれに道は異なっても、ワシントン日本語学校で共に青春を過ごしたことで、卒業生の皆さんの間には強い絆が養われていることと思います。私達在校生も、本校の素晴らしい伝統を守り継ぎ、悔いのない学校生活を送れるよう、一層努力致します。卒業後も時には母校を訪ね、元気な顔と共に、私達を励ましてくれると嬉しいです。

最後になりましたが、卒業生の皆さんのこれからのご活躍とご健康を、在校生一同、心よりお祈りし、送辞といたします。

令和5年3月18日

在校生代表 高等部1年 小寺優蘭



退任に当たり

1冊で3年記入できる日記帳を持参してきましたが、都合により2年で退任させていただくことになりました。年間41日授業日のあるワシントン日本語学校。令和3年4月7日に赴任した日には、既に4月3日の第1授業日を終わっていました。それから8月の終わりまで、オンライン授業が行われました。

お借りしている聖心SR校にも足を踏み入れる機会もなく、まして、児童・生徒の皆さん、先生方、保護者の皆様とも直接お会いすることができませんでした。いつの間にかオンラインが当たり前になっていました。

「当たり前の反対の言葉はありがとう」「タイとさい」「ひっくるめて一人の人間」の3つの言葉を座右の銘として過ごしました。本当にいろいろな当たり前に、「ありがとう」の気持ちが出てくるようになりました。「ありがとう」の言葉は「人」だけでなく、「もの」にもです。

全校の皆さんと一同に会することができたのは、今年度の運動会と避難訓練だけだったように思います。たった2回でしたが、500人を超える子どもたちと一緒にいられることに喜びを感じることができました。子どもたちが一同に会することができるのも、保護者の皆様のお子様のことを思うやさしく、あたたかく、そしてきびしいお気持ち、先生方の授業への情熱、管理運営委員会の皆様のリーダーシップ、事務局の皆様の縁の下での力持ちがあるからです。感謝の気持ちでいっぱいです。

ワシントン日本語学校の益々の発展を祈念しております。2年間お世話になりました。

神戸昭夫